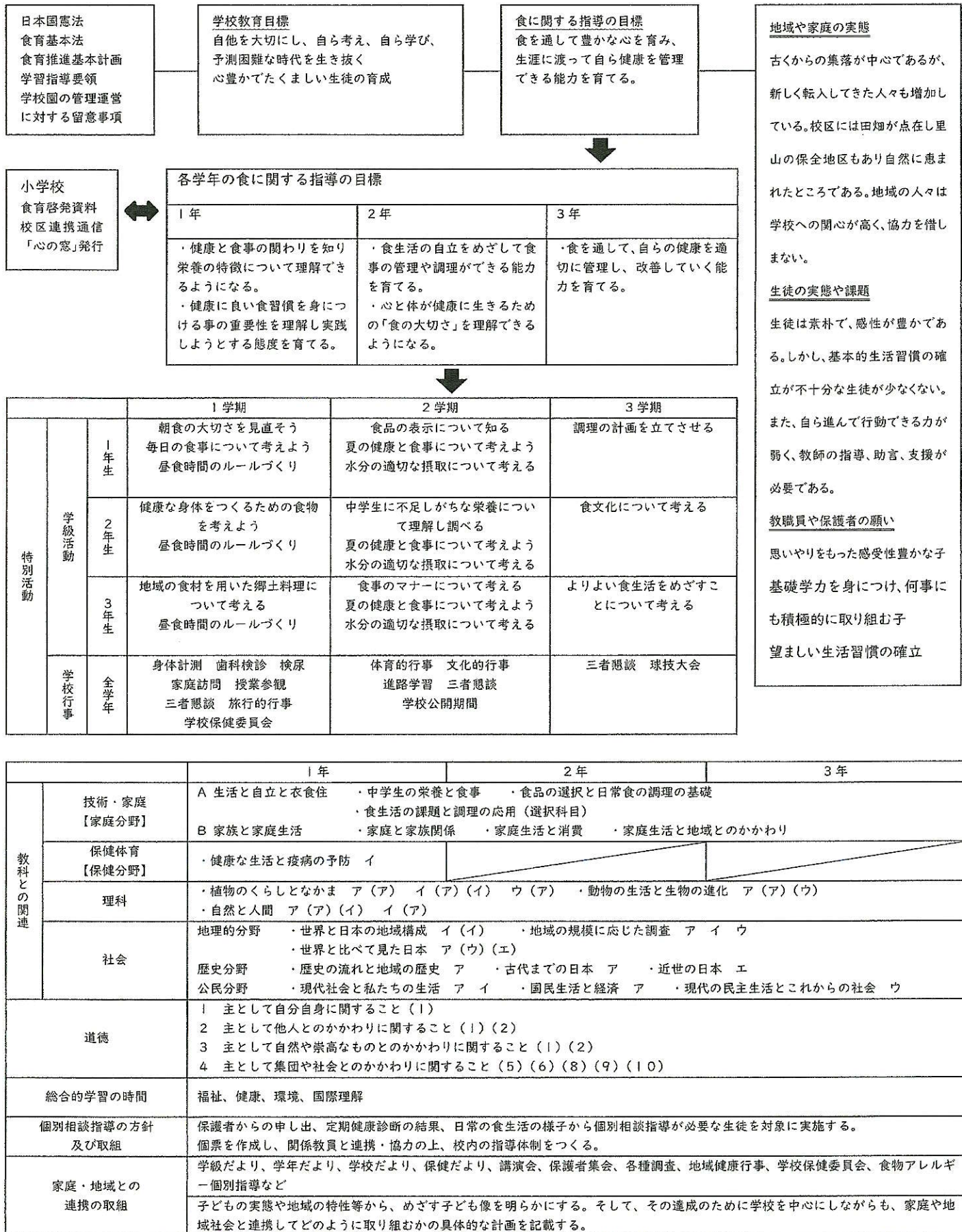
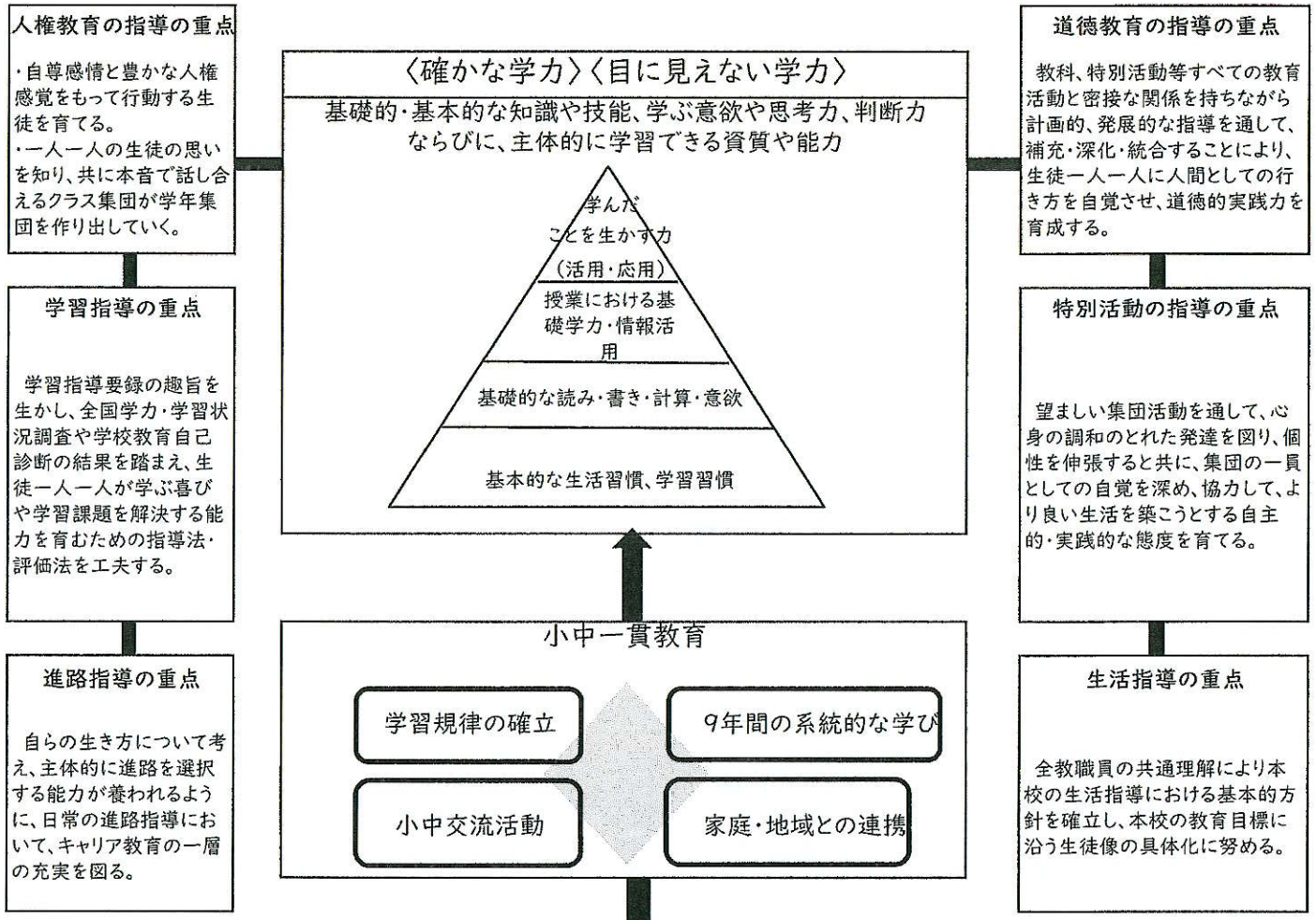


16. 食に関する指導の全体計画



17. 学力向上を図るための全体計画



本校の教育改善に向けた取組

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成の工夫	校内研修・研究の工夫	家庭や地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本を身につけさせるために、学習ツールを活用、小テストや反復練習を行う。 ○家庭学習を支援するため宿題等を出す。 ○英語・数学で少人数指導習熟度別に積極的に取り組む。 ○学び合い、課題解決する時間を取り入れた授業づくり。 ○自分で考え、自分の考えを自分の言葉で表現する時間を取り入れた授業を行う。 ○受け身ではなく生徒主体の授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間と各教科との関連を図る。 ○長期休業中に宿題を出したり、学習会を行ったりする。また学期始めに宿題テストを行う。 ○「読む力」をつけるため、朝読書および読書活動の時間などで生徒に達成感や充実感を味わわせ、自尊感情を育てる。 ○教科の枠組みにとらわれず、横断的な学びにつなげていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上へ向けて、「授業力の向上」「学習姿勢の育成」「家庭学習習慣の醸成」を図る。 ○外部講師の活用。 ○研究授業の活性化により授業力の向上をめざす。 ○授業参観シートを活用し、活発な意見交流を図る。 ○教科部会を充実させ、ICTの活用など年間カリキュラムの創意工夫を図る。 ○小中一貫学力向上委員会を設置し、学習の連続性を確保し、より効果的且つ包括的に学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより、ホームページなど学校の情報を伝える。 ○学校教育自己診断の結果、課題解決の方策を発表し、意見をうかがう。 ○家庭訪問等を行い、直接保護者の意見をうかがう。 ○民生委員・児童委員と定期的に会議を持つことにより情報を共有する。 ○授業参観や公開授業などを実施する。 ○学校評議員制度を活用する。

学力向上の課題と課題解決に向けての改善方法

1. 目標

「非認知能力の育成」

— 子どもが主役になる授業づくり —

本校ではすべての教育活動において、班活動及びグループ活動を取り入れた「学び合い活動」を通じ、生徒同士がともに高めあい、学び合う授業実践を行ってきた。今年度も全学年において、基礎・基本の定着を図り、班活動や学び合い活動を通じて、生徒同士がともに高めあい、学びあう活動に軸足を置いた授業実践に引き続き取り組んでいく。生徒が、自ら学ぶことに興味や関心を持ち、自分の経験と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」、生徒同士の協力、教師や生徒同士の対話を通じ、自らの考えを広げ深まる「対話的な学び」、習得・活用・探求の見通しの中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「深い学び」を実現していきたい。

また、特に「粘り強さ」「先を見通す力」「課題解決能力等」の目に見えず、数値化できない能力(非認知能力)について、日々の教科での取り組みを通して、校区全体で更なる発展をめざす。

2. 具体的な取り組み

(1) 「朝読書」の継続実施

読書は、「自分の意見を持つ」ための重要な役割の一つとして考えられる。全学年全クラスで朝読書を行う。

(2) 「めあて」の提示「ふりかえり」の徹底

特に伝えたい内容を可視化することで、生徒の授業への理解を促す。本時の「めあて」を提示し、各時間の最後に、本時の学習内容を「振り返る」取り組みを行う。

(3) 主体的・対話的で深い学びの取り組み

学習内容に応じてグループ活動等を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開するとともに、それぞれが役割を持ち、一人ひとりが活躍できる授業づくりを行う。

(4) 学力向上研究授業

1年に1回、各教科で相互授業参観を行い、教員同士で授業を参観する機会を設ける。

学期に1回、相互授業参観週間を設定し、教科を超えて授業を参観する機会を設ける。

(5) 家庭学習の定着

週末宿題(タブレットドリル)、「1時間+α運動」を実施し、家庭学習の定着を図る。

(6) 非認知能力の取り組み

日々の授業の「めあて」の掲示に併せて、本字で取り組む非認知能力の「めあて」も掲示し、非認知能力の向上をめざした授業を実践する。

令和4年度4月実施の全国学力学習状況調査の結果から、全教科で基礎的な選択式問題や、日常生活に必要な記述式の問題に課題が見られた。国語では理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするような活動を多く取り入れ、自分の考えを正確に相手に伝える力を身につけることが必要である。数学では、基礎的な問題に課題があり、数学的に整理して表現ができるようになるような指導を充実させたい。少人数のグループワークを通して「なぜ」「どうして」を生徒同士が意見を交流し合い考えを深め合う、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりに積極的に取り組んでいきたい。

令和4年度 大阪府チャレンジテストの結果分析と今後の取組

<国語>

漢字を「読む」ことには一定の成果が見られたが、「書き」に関しては大きな課題が見られた。これまで、「書くこと」に重点を置き、授業計画を立ててきた。その結果、無回答のまま解答欄を放置する生徒は減少傾向にあるが、正答率という点でみると、大きな変化は見られず、書かせることにのみ終始してしまった結果であると考えられる。今後も図書室等の積極的な活用をすすめるとともに、授業においては、より正確に自分の意見を発信し、的確に聞き取る力を育成するべく、ペアワークや4人の学習班を取り入れるなど、本に触れる機会や話し合う場面を増やし、言語力向上に努めていく。

<社会>

「思考・判断・表現」に課題が見られ、その中でも特に記述式に関して大きく苦手意識があるように見られた。資料から考察し、自分の考えを記述する問題の未回答率が高く、授業内でも自分の意見、考えを文章に表現する取り組みが必要だと感じた。また、長い問題文の中でも、必要な部分だけを読み取る力や、グラフから正確に数値等を読み取る力が必要であり、授業内でも重点的に資料問題に取り組む必要があると感じた。

<数学>

図形の分野においては一定の成果が見られた。しかし、どの学年でも四則計算や文字式、方程式など、基本的な計算に課題が見られたため、今後も計算の反復練習に力を入れて取り組む必要がある。問題を読み切る前に解くのをあきらめてしまう生徒もいるため、グループでの教え合い活動や発表などを取り入れながら、「すじ道を立てて考える力」「ねばり強く取り組む力」を育みたい。

<理科>

無回答率が高いことから、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るため、反復学習を繰り返し行う。また、記述式の問題について課題があった。授業では書くための条件を緩めることで記入することができるため、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなど課題の掲示の仕方を工夫していく。さらに、科学的思考を深めるために、発展的な問題をグループ学習を取り入れながら解くことで思考力・表現力の強化また、入試問題の対策にも繋げていきたい。

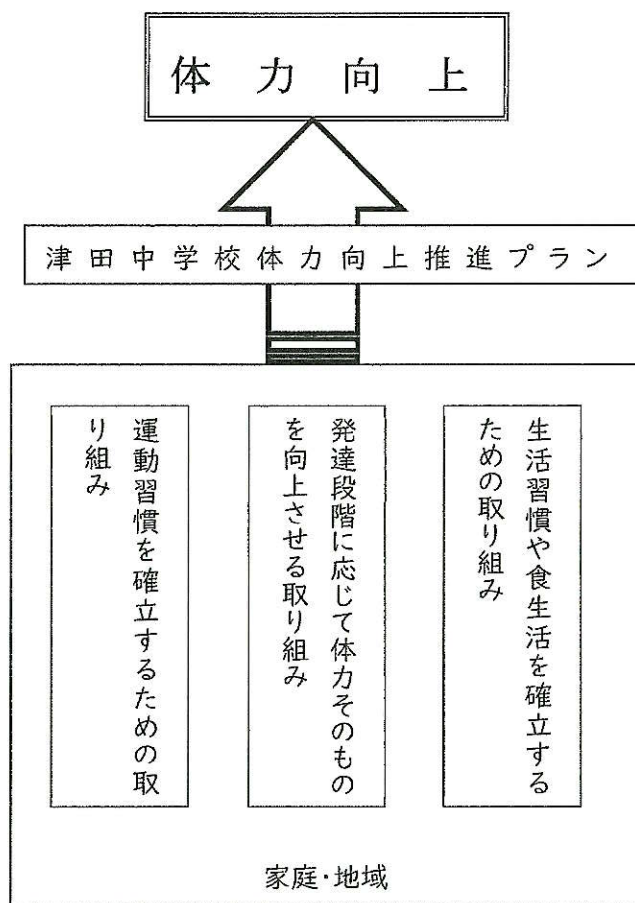
<英語>

「思考・判断・表現」に課題が見られた。特に「書くこと」に苦手意識のある生徒が多い。この状況を改善するためにも引き続き音読・暗唱を取り入れた授業を展開し、自ら英語を使い表現することを重視した授業研究に取り組んでいく。NETを効果的に活用し、自分の考えや意見を伝えたり、相手のことを尋ねたりするコミュニケーションの機会を増やしたい。また、授業でのリスニング練習や教師と生徒の英語発話量を増やし、「聞くこと」の力も強化していく。

18. 体力向上推進プラン

1. 令和4年度新体力テスト(中学2年生)の結果をもとに、津田中生は、握力以外のテスト項目が男女とも全国平均を下回っている。特に、長座体前屈や20mシャトルランは男女とも全国平均を大きく下回っており、柔軟性や全身持久力が低いことがわかる。年間を通して柔軟性や全身持久力を高めるために十分な運動量を確保した授業づくりや準備運動でストレッチをするなど体力の向上をめざして行っていきたい。

2. 令和5年度の具体的な取り組み



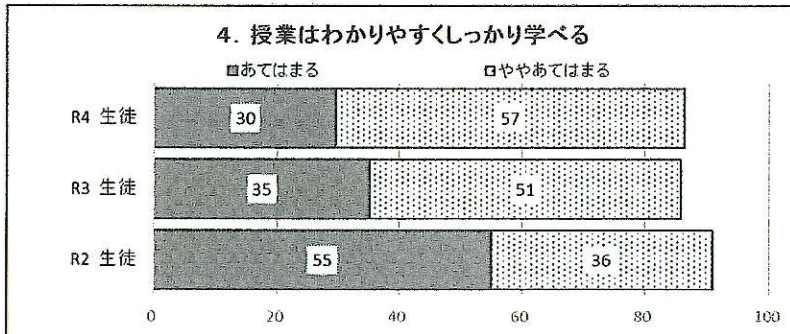
年間カリキュラムの中で、男子は特に、筋パワーや敏捷性、全身持久力の向上をめざした運動を実施する。女子は男子と同様だが、総合的に体力の向上をめざした運動を実施する。また、男女とも柔軟性を高める運動を意識し、実施する。基本的には教師主導で学習を展開し、ペア・グループ活動を行い、運動の楽しさを伝える。体力を高める運動は各領域の正しい運動の仕方・運動効果を段階的に指導し、助け合い、高めあい、気づきあえるように指導していく。発達段階を考慮し、校区の小学校とも児童生徒の体力状況の連携を図り、9年間を見据えた体力の向上をめざす。中学1年生では、特にさまざまな動きを取り入れ巧緻性を高める運動を身につけさせる。中学2年生では、特に全身持久力の向上を図り、中学3年では、特に自重を負荷としたトレーニングで体力向上を図る。学校行事では、仲間同士のかかわり、つながりを大切に、協力することで味わえる達成感を共有し、自ら進んでスポーツしようとする意識を持たせる。

19. 令和4年度学校教育自己診断について

集計結果と考察

アンケートの回答における「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計を肯定的評価としています。なお、「非回答」を含みますので、合計が100%にならない場合があります。

(1)「生徒の学ぶ意欲、基礎基本などの学力向上」にかかる質問項目について

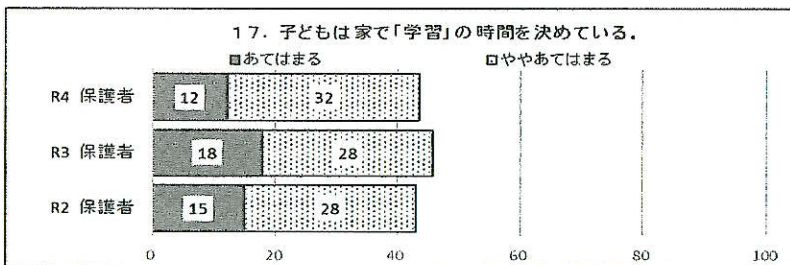


4.「授業はわかりやすくしっかり学べる」の質問項目について、生徒の肯定的評価の割合は87%で、令和3年度と比較して1ポイント増加していますが、令和2年度と比較して4ポイント少なく、「あてはまる」(強い肯定)では、過去3年間で最も低い割合となっています。

今年度も昨年度同様、基礎基本を重視した確かな学力を身につけるとともに、個性の伸長を図

りながら、学習内容に応じて ICT 機器(タブレット・プロジェクタなど)を活用し、楽しくわかる授業、一人ひとりが活躍できる授業づくりに取り組んでまいりました。

今後も継続して相互授業参観や授業研究をおこない、生徒一人ひとりが「わかった」、「できた」などの眩きが聞こえるような授業をめざして授業改善に取り組んでまいります。

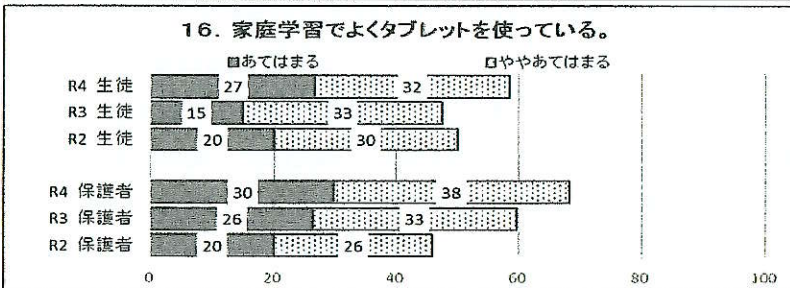
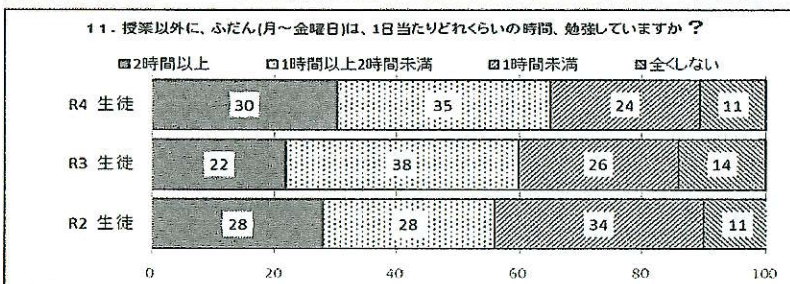


17.「子どもは家で「学習」の時間を決めている」の質問項目について、保護者の肯定的評価の割合は44%で、昨年度と比較して2ポイント減少しました。しかし、11.「授業時間以外に、ふだんは、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」の質問項目において、「2時間以上」と回答した生徒が、昨年度と比較して8ポイント増加し、過去3年間で最も高い割合となっています。

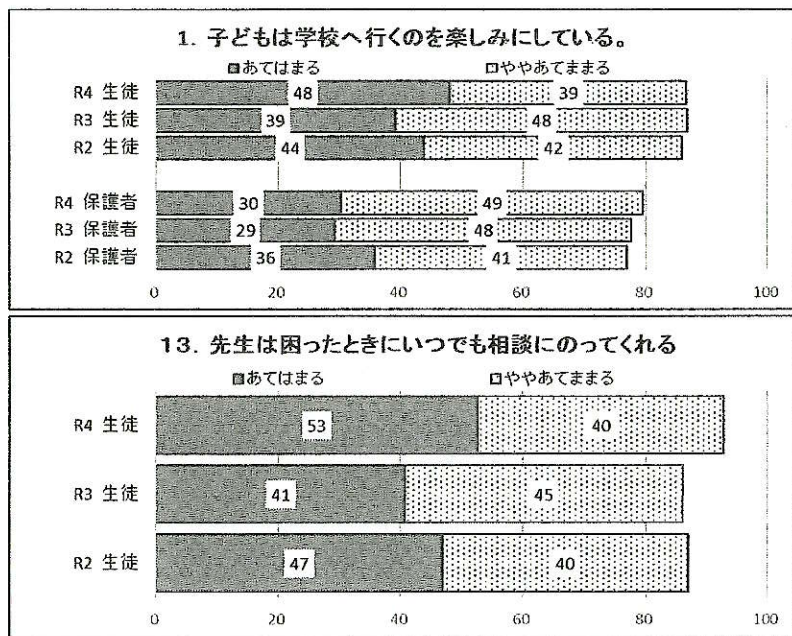
また、16.「家庭学習でよくタブレットを使っている」の質問項目では、生徒の肯定的評価は59%で、昨年度に比べて11ポイント増加し、保護者の肯定的評価は68%で、昨年度に比べて9ポイント増加しました。

今年度も昨年度に引き続き、生徒の放課後学習や家庭学習の定着を図るため、「津田中 1 時間 + α 運動」、「週末宿題」に取り組んでまいりました。また、今年度も継続して「タブレットドリル」を活用した取組も実施しています。放課後学習

や家庭学習の定着がまだまだ不十分である状況が続いています。授業で学んだことを定着するためには、放課後学習や家庭学習が不可欠です。タブレットを活用した家庭学習の推進と家庭における学習習慣を身につけたいと考えています。生活のリズムを整え、生活の中に家庭学習の時間をしっかり組み込んでいく必要があります。



(2)「生徒が安心して生活できる環境づくり」にかかる質問項目について



1.「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」の質問項目について、生徒の肯定的評価の割合は昨年度と同様87%となっており、「あてはまる」(強い肯定)では、過去3年間で最も高い割合となっています。また、保護者の肯定的評価の割合は79%と、過去3年間で最も高い割合となっています。各教職員は、カウンセリングマインドによる内面にせまる指導を行うとともに、生徒理解と信頼関係のもと、温かみのある指導を心がけてまいりました。

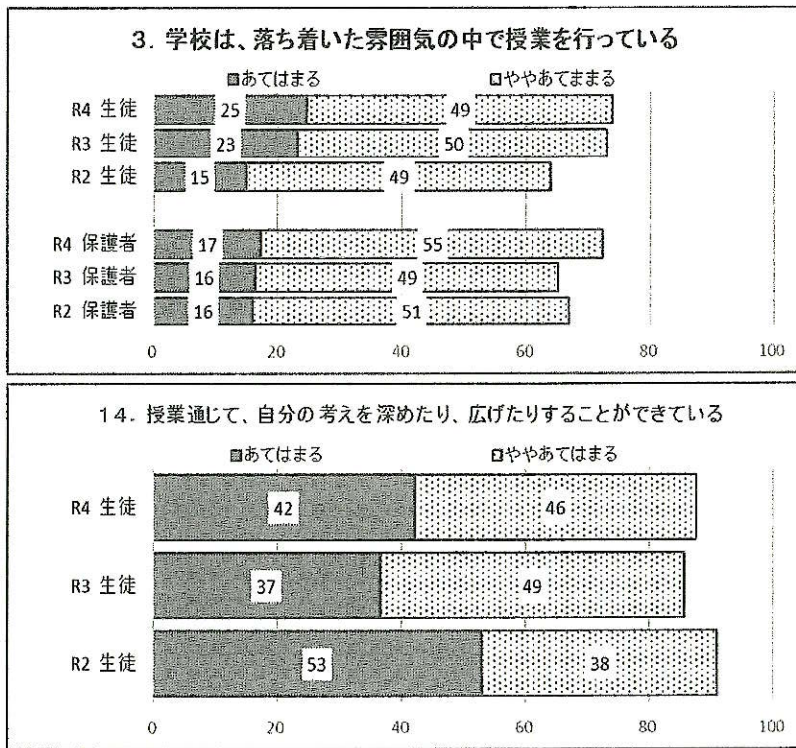
13.「先生は困った時にいつでも相談にのってくれる」の質問項目では、「あてはまる」(強い肯定)と回答した生徒の割合が53%で、過去3年間で最も高い割合となっています。今後も、

正しい生徒理解のもと、信頼関係を基盤とし、温かみのある指導を推進してまいります。

(3)「教職員の高い志と組織力向上」にかかる質問項目について

3.「学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている」の質問項目において、生徒の肯定的評価は74%で、過去3年間で最も高い割合になっており、また、保護者の肯定的評価も72%で、過去3年間で最も高い割合となっています。

また、14.「授業を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問項目では、生徒の肯定的評価の割合が88%と、昨年度と比較して2ポイント増加しています。生徒は、努力して授業に集中し、落ち着いた雰囲気の中で、班で話し合い、意見を交流したのち、全体に発表するなど真摯に取り組んでいました。教職員は、研究授業や相互参観授業を行い、各教科や学年会で情報共有し、教材研究や授業づくりに取り組んでまいりました。今後も、組織的に生徒の授業に対するモチベーションを高める工夫、学習規律の定着、より良い学習集団の育成に取り組んでまいります。



(4)「学校・家庭・地域の連携を活性化」にかかる項目について

今年度もコロナ禍により、授業参観や行事等で学校に来校していただく機会が減少する中、学校だよりや学級通信、これまでのホームページに加えて、学校ブログを活用して生徒の様子や学校の取組、PTA や地域の皆様の活動等を積極的に発信してまいりました。令和4年12月19日現在、学校ブログのアクセス数は170219件、1日あたりの平均は166.6件となっています。今後も積極的な情報発信に努めるとともに、タイムリーで効果的な情報発信の方法について研究してまいります。

20. 令和4年度 学校評価について

1. 学校教育目標

1. 生徒一人一人が個性を発揮でき、その良さを認め合い、意欲的で創造的に活動できる学校。
2. 正しい生徒理解のもと、厳しさの中にも温かみのある積極的な指導をおこなう学校。
3. 教職員相互の共通理解のもと、教職員が一丸となって取り組む学校。
4. 効果的な情報発信により家庭と地域、関係諸機関との連携を積極的にすすめる学校。

《めざす子ども像》

自他を大切に、自ら考え、自ら学び、予測困難な時代を生き抜く心豊かでたくましい生徒の育成

2. 学校経営方針

「すべての生徒がいいきと学ぶことができる学校」をめざして

1. 生徒一人一人を基準として、知徳体の調和のとれた生徒の育成に取り組みます。
2. 温かみの中に規律のある学校を創造するとともに、将来に夢を持たせる教育を推進します。
3. すべての教職員の協働による教育活動を推進します。
4. 地域とともにあって信頼される学校をめざします。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

基本 方策	項 目	・本年度の重点目標	○具体的な取組内容 (◆活動指標・成果指標を含 める)	□取組内容の自己評価
確 かな 学 力 と 自 立 の 力 を 育 む 教 育 の 充 実	学 習 指 導	基礎・基本の定着とそ れらを活用する授業	<ul style="list-style-type: none"> ○「わかった」、「できた」と眩 きが聴こえる授業 ○ 学び合い、課題解決する 時間を取り入れた授業 ○ 自分で考え、自分の考え を自分の言葉で表現する 時間を取り入れた授業 ○ 受け身ではなく主体的に 学ぶ授業 ○ 放課後学習や家庭学習の 定着 ◆ 自分の考えを深めたり、広 げたりすることができている(肯定的評価90%以上) ◆ 家で計画を立てて学習を している。(肯定的評価5 0%以上) 	<p>「授業はわかりやすくしっかり 学べる」の質問項目について、 生徒の肯定的評価の割合は8 7%で、令和3年度と比較して1 ポイント増加している。令和2 年度と比較して4ポイント少な く、「あてはまる」(強い肯定)で は、過去3年間で最も低い割 合となっている。</p> <p>「子どもは家で「学習」の時間 を決めている」の質問項目につ いて、保護者の肯定的評価の 割合は44%で、昨年度と比較 して2ポイント減少した。</p> <p>「授業時間以外に、ふだんは、1 日当たりどれくらいの時間、勉 強していますか」の質問項目に おいて、「2時間以上」と回答し た生徒が、昨年度と比較して8 ポイント増加し、過去3年間で 最も高い割合となっている。</p>

豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	生徒指導	生徒が安心して生活できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 率先垂範による厳しくも温かみのある指導 ○ 「聴く」、「受け止める」ことによる内面にせまる指導 ○ 道徳・人権教育を基盤とした心の教育の推進 ○ 校内緑化や美化活動による校内環境整備 ○ 発達に課題のある生徒理解に基づく、生徒指導と支援教育の協働 ◆ 学校へ行くのが楽しい(肯定的評価90%以上) ◆ 困ったときにいつでも相談に応じてくれる(肯定的評価90%以上) 	<p>「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」の質問項目について、生徒の肯定的評価の割合は昨年度と同様87%となっており、「あてはまる」(強い肯定)では、過去3年間で最も高い割合となっている。保護者の肯定的評価の割合は79%と、過去3年間で最も高い割合となっている。</p> <p>「先生は困った時にいつでも相談にのってくれる」の質問項目では、「あてはまる」(強い肯定)と回答した生徒の割合が53%で、過去3年間で最も高い割合となっている。</p>
教職員の資質と指導力の向上	組織運営	共に学び、考える、同僚性の高い教職員集団	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通説や経験則のみに頼らない課題解決 ○ 失敗を恐れず挑戦し、失敗を許容する文化の醸成 ○ 気楽に相談し助け合い、弱みを補い強みを生かす関係の構築 ○ 研究授業、相互参観授業による授業力の向上 ○ 報告、連絡、相談、記録、危機管理の徹底 ○ 共通理解、同一歩調による相互支援 ◆ 落ち着いた雰囲気で行っている(肯定的評価80%以上) ◆ 授業はわかりやすくしっかり学べる(肯定的評価90%以上) 	<p>「学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている」の質問項目において、生徒の肯定的評価は74%で、過去3年間で最も高い割合になっており、また、保護者の肯定的評価も72%で、過去3年間で最も高い割合となっている。また、「授業を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問項目では、生徒の肯定的評価の割合が88%と、昨年度と比較して2ポイント増加している。</p>
地域とともにある学校教育の推進	情報提供	家庭・地域・関係機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通信やホームページを活用した積極的な情報発信 ○ 学校教育自己診断や学校評議員制度を活用した学校運営の改善 ○ 互いの基礎的知識をもち、相手の立場を理解しながら共に取り組む関係機関との連携 ○ 小中連携会議や相互参観授業、合同研修会を通じた教職員の交流 ◆ 家庭連絡や意思疎通を行っている(肯定的評価67%以上) ◆ 通信やホームページ等を通じて発信している(肯定的評価90%以上) 	<p>今年度もコロナ禍により、授業参観や行事等で学校に来校していただく機会が減少する中、学校だよりや学級通信、これまでのホームページに加えて、学校ブログを活用して生徒の様子や学校の取組、PTA や地域の皆様の活動等を積極的に発信してまいりました。令和4年12月19日現在、学校ブログのアクセス数は170219件、1日あたりの平均は166.6件となっている。</p>

※必要に応じて欄を増やしてください。

※基本方策については、枚方市教育振興基本計画(令和2年9月計画見直し)を参照のこと。

※項目については、文部科学省学校評価ガイドライン(改訂)の内容を参照のこと。

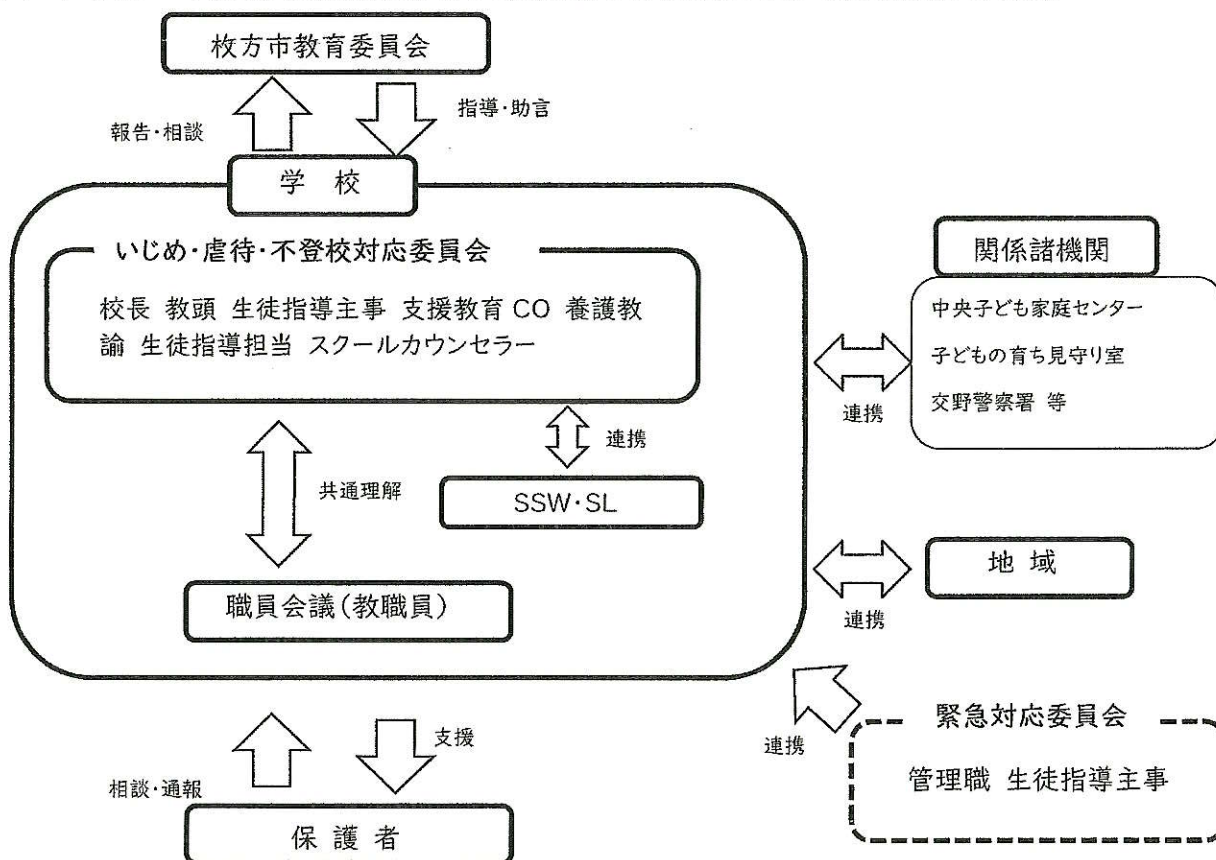
4. 学校教育自己診断の実施状況

学校教育自己診断の結果と分析	
①実施時期〔令和4年12月〕 ②対象〔生徒・保護者・教職員〕 ③結果から特記すべき事項と分析 各アンケートの質問項目において、第2学年生徒の肯定的回答の割合が全体に比べて低い傾向あり。 放課後学習及び家庭学習の習慣が定着しておらず、家庭と連携した取組が必要である。	

5. 次年度に向けて

項目	内容	○改善方策
学習指導	・放課後学習や家庭学習の定着	○放課後学習や家庭学習の定着を図るため、「津田中 1 時間 + α 運動」、「週末宿題」の取組継続
組織運営	・新しい生活様式を踏まえた学校運営	○通説や経験則のみに頼らない課題解決
生徒指導	・校内緑化や美化活動による校内環境整備	○一人ひとりが自分の学習の場、職場の環境を改善する意識改革

21. いじめ・不登校の未然防止と早朝対応に取り組むための共通理解と対応



*不登校兆候とみなす未然防止

- 新1年生 4・5月・9月…3日以上の欠席
保健室利用
小6時の様子を把握する
- 2・3年生 通年 5日以上欠席
保健室利用
1,2年時の様子を把握する

*校内適応指導教室生徒への対応

- ・担任及び教科担当は、クラスの一員であることを意識づけるとともに、学習意欲向上を図るために、できる限り学級や授業に関わるプリントを配付する。
- ・不登校支援協力員は生徒個々とのコミュニケーションを重視する。
- ・スクールカウンセラーは当該生徒もしくはその保護者からの相談を受け、対応する。
- ・不登校支援協力員または不登校担当教員は個々の生徒の生活活動、状況を毎日記録する。

*いじめ・不登校の未然防止のため

管理職・生徒指導主事・支援教育 CO・児童生徒支援 CO・養護教諭・生徒指導担当・SC による「いじめ・虐待・不登校委員会」を週1回行うとともに、生徒指導部会を月1回行い、不登校の現状報告を職員会議で全職員に対して行う。

★問題解決、未然防止策

個々の対応については細やかな指導を行うとともに、担任は個人で抱え込まず、学年・生徒指導主事並びに管理職等に報告・相談の後、家庭への連絡や訪問を怠らないこと。

22. キャリア教育

津田中学校区のめざす子ども像

【基本的な生活習慣を確立させ、自学自習力を育成し、豊かな心を持った子どもを育む】

この目標に向けて小学校中学校が連携し、小中 9 年間で以下のことについて取り組む

(小学校)

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
発達段階の目標	なかよしになろう (関心をもとう)		友達と協力しあいあおう (関わりを深めよう)		自己を生かそう (自分を大切に)	
つけたい力	つながる・わかる		つながる・チャレンジ		つながる・わかる・きめる	
活動名	お手伝い名人になろう 季節を感じよう	校区めぐり	友だちのよいところ をみつけよう	10年後のわたしへ	宿泊学習 米作り体験学習	平和学習 修学旅行
目的	・できる喜びを味わい、家族にほめてもらえる体験をする。 ・学校や公園の変化を感じ豊かな感性を養う。	様々な人とのふれあい、人間関係形成能力を育成する。	友だちのよいところをみつけ、認める。	命の尊さを感じ、将来の夢をはぐくむ。	・仲間意識の向上を図る。 ・働くことの意味を考える。	平和の大切さを知り、平和を守るためにできることをする。
活動内容	・家庭で自分にできるお手伝いを考え、実行する。 ・校内を散策したり、校区の公園を訪れ、季節の移り変わりを感じる。	・身近で働く人々の様子をし知り、興味関心を持つ。 ・校区の様子を知ること、自分たちの住む町について心を持つ。	自分のよいところを見つけるとともに、友だちのよいところを認め、励ましあう。	・両親に生まれたときのことを聞く。 ・周りの人々へインタビュー。 ・学級で将来の夢について話し合う。	・キャンプファイヤーやプログラムをグループで協力して活動する。	・広島平和記念資料館を見学し、戦争の悲惨さと平和の大切さを知る。 ・平和記念公園でグループ活動をし、協力して活動する。
期待する子どもの変容 目標達成に向けたポイントなど	・役立つ自分への充実感を味わい、自尊感情を育てる。 ・自然を大切にし、生命尊重の心を養う。	・地域のなかで暮らしていくうえで、さまざまな人たちに支えられていることを知り、感謝する気持ちを育てる。 ・校区の施設や人々に興味・関心を持つことができる。	他者肯定の感情を育て、人に対する思いやりの心を育む。	自分の良さや個性に気づき、友だちの良さを理解することができる。	・学級の壁をこえて横の関係が出てくる。 ・自分たちで実践していくことの楽しさを感じる。 ・働くことの大変さを学ぶことで、周りの人に対する感謝の気持ちが生まれる。	平和の大切さを知り、平和を守ろうとする態度を育てる。

中学校

	1 年	2 年	3 年
発達段階の目標	他者と協力する大切さを学ぶ。 学ぶことの意義、働くことの意義について学ぶ	他者と協力し、 様々な職業を知り、働くことの尊さを学ぶ	自己を見つめ、より良い進路選択ができる
つけたい力	つながる力、自ら学ぶ力	わかる力、未来を想像する力	決める力、挑戦する力
活動名	学び方学習、職業調べ	職業講話	進学先の見学、就職先の見学
目的	学ぶことの大切さを知り、自ら学ぶ力を育成する。 職業調べを通じて、様々な職業で世の中は成り立っていることを学ぶ	将来の夢や職業について考え、仕事への関心・意欲を高める。 将来に向けて今何が必要か分析できる力を育てる	自己の個性や能力、適性への理解を深め、進路を選択し、決定する力を養う。 正しい情報の収集能力を育成する。
活動内容	授業で積極的にグループ活動を取り入れる。 自分の気になる職業を調べ、まとめる	興味を持った分野の職業講話を聞き、働くことの大切さや苦労などを知る。	中学校卒業後の進路について調べる。 高等学校等の情報を積極的に活用し、自分の進路について考える。
期待する子どもの変容 目標達成に向けたポイントなど	協力して課題を解決する力の育成	その職業に向けて自分に必要な力を分析する力の育成。	様々な情報を集め、自分の将来を見据えて進路選択ができるようにする。 自分の考えや思いをしっかりと伝え、進路選択の意思表示ができるようにする。